

## 令和5年度第2回宗像市スポーツ推進審議会 次第

日 時	令和5年12月5日（火）18:53～20:35	
会 場	宗像市役所 202会議室	
出席者	委 員	市丸、大賀、釜瀬、末永、西村、野口、村山
	事務局	大塚、上田、吉丸、末永、水田、井上

### 【開会】

大塚課長： 青野委員と石松委員は事前に欠席の連絡が入っている。定刻より早いですが全員揃ったので、令和5年度第2回宗像市スポーツ推進審議会を開会する。

この審議会は、宗像市スポーツ推進審議会条例第6条第2号の規定により、委員の半数以上の出席が成立条件となっている。本日は委員総数9人のうち、ご出席の委員数7人で、本日の審議会が成立することを報告する。

議事に入る前に資料の確認をする。

（資料の確認）

これからの進行を市丸会長にお願いする。

#### 1 開会あいさつ

市丸会長あいさつ

#### 2 議事録（議事要旨）署名委員の指名について

市丸会長： 議事録署名委員の選出について、今回の議事録署名委員を2人お願いする。名簿順に指名する。前は、青野委員と石松委員にお引き受けいただいたので、今回は、大賀委員と釜瀬委員にお引き受けいただきたいと思う。

（両委員が承認）

結果：議事録署名委員は大賀委員、釜瀬委員。

#### 3 報告事項

市丸会長： 報告事項について、事務局から説明をおこなう。

上田係長： 第3期宗像市スポーツ推進計画が宗像市総合計画に包含する可能性について説明する。

まず、結論から申し上げますと仮に宗像市総合計画に包含されるとしても審議する過程についての変更はないが、第3期宗像市スポーツ推進計画に載るか、第3次総合計画に載るかの大きな違いがある。

第2次総合計画と第3次総合計画の違いについて説明する。

第2次総合計画では、文章だけの構成であったが、第3次総合計画では、重点目標を数値化し  
できるかぎり見える化して管理していく。

第2次総合計画までは、総合計画があるにもかかわらず色々な関連計画があり、極端に言えば  
総合計画にはその関連計画がそのまま掲載されているような形となっており、職員に負担がかか  
っていたが、第3次総合計画ではできる限り統合して業務の負担を減らすことが目的となってい  
る。

総合計画に統合することについては、市全体で合意形成がなされており包含していく方針で進  
んでいる。

資料の「第2次総合計画との比較について」をご覧ください。

総合計画に包含された場合は、柱の数に応じて資料のようなイメージで総合計画の中に掲載さ  
れる。

市丸会長： 報告事項ですので、質疑はなしでよろしいか。

(質問等なし)

#### 4 協議事項

市丸会長： 協議事項について事務局から説明する。

末永（文化スポーツ課）： 今回の協議については、第2期スポーツ推進計画の現状と課題の整理を  
し、次回以降でアンケートの内容の会議などに進んでいく。

現状と課題については、すべて読み上げると時間を要するので課題があるところを中心に1部  
を抜粋して読み上げていく。

また、質疑については番号が1～8までの大きな括りがあるので、1つの番号ごとに質疑をお  
伺いする。

1 スポーツ・運動を通した市民健康活動の推進(1) 市民エンジョイ・ウォーキング事業①ウォーキン  
グの普及、推進の現状は、スポーツサポートセンターのHPにて市内ウォーキングマップの紹介をはじめと  
して、令和2年度からノルディックウォーキング体験教室の開催や健康課と連携しふくおか健康ポイントア  
プリを活用した「つながりヘルスケア」事業の推進をおこない、ふくおか健康ポイントアプリへの加入促進  
やアプリを活用したウォーキングの開催に努めている。

また、ウォーキングの習慣化に繋げる活動の1つとして、各地区でのウォーキング大会やウォーキング事  
業の開催のサポートをおこなっている。

習慣化につなげる活動として市委託事業で「スポーツ推進委員活動モデルウォーキング事業」を玄海  
地区のスポーツ推進委員2名に委託。

玄海のびのびウォーキングと銘打って令和4年9月から令和5年3月までの期間で実施。第1回ウォ  
ーキングを実施済(参加者約25人)。11地区にも順次拡げていく予定。

さらに、ウォーキングの成果を発揮する場として、令和4年度より宗像市主催のウォーキング大会「イイ  
さんウォーキング宗像大会」を開催している。

課題は、「ウォーキングに対する目標に対して十分な活動ができなかった。」、「ウォーキングマップ・ア  
プリの活用や普及・広報をどうやっていくか。」、「関係機関、関係課とうまく連携ができなかった。」である。

イいさんウォーキングの参加者は、令和4年度は、ショートコース142人、ロングコース85人計227

人、令和5年度は、ショートコース125人、ロングコース111人計236人となっている。

② 市民ウォーキング大会等の情報提供やコース整備の検討について。

現状は、イイさんウォーキングと南郷ぐるっと健やかウォークの周知や情報提供をおこなっている。

日の里地区の聖火リレーウォーキングコースの日の里周回コース整備を実施した。

課題は、関係機関、関係団体と連携が不十分であった。

(2) 大学、企業、地域等との連携による市民の健康活動の促進について。

現状は、各地区のコミュニティ・センターや公民館等で開催されている健康づくり・運動教室の情報の集約や市スポーツ協会加盟の単位協会に対して、傘下のスポーツクラブのHPやSNS等による部員の募集状況の調査を行い、スポーツサポートセンターのHPにて紹介をした。

市内の企業である(有)エイコーウェルと連携し、自宅でも取り組めるトレーニング動画を作成し宗像市公式 Youtube にて公開や体力測定や健康教室を開催した。

市主催のウォーキング大会にて新生堂薬局、第一生命、明治安田生命と連携して、骨密度やインボデ、血管年齢等の健康測定等をおこなった。

市内大学と連携しての講座については、実施できなかった。

課題は、関係機関、関係団体と連携が不十分であった。

(3) 市全域を対象とした総合型地域スポーツクラブの設立・運営について。

現状は、南郷地区コミュニティ内で活動する南の郷クラブの活動を支援し文化スポーツ課職員がアドバイザーとして南の郷クラブの委員会へ参加し、情報提供等を通して活動を支援している。

課題は、指導者の確保や会員数の確保が大きな課題である。

市丸会長:質問等ないか。

末永副会長:課題の中で関係機関や関係課というのがでてきているが、具体的にはどこを指すのか。また、連携が不十分であったことについてどう考えているのか。

大塚課長:関係課でいえば、健康課や福祉政策課が挙げられる。医療費の削減などを目標にサポートセンターでも健康づくりの取り組みをしているが、健康課の健康づくりに対する取り組みを十分に把握できておらず、ウォーキングの取り組みも一緒に取り組めばもう少しより良いものになったのではないかと考えている。

上田係長:関係機関については、スポーツ協会、南の郷クラブ、(有)エイコーウェルとの連携が不十分であったと考えている。

大賀委員:ヘルス推進委員は、健康課から任命されているのか。

上田係長:各地区のコミュニティ運営協議会が束ねており、各自治会から任命されている。各自治会から任命されたヘルス推進委員を活用してコミュニティ運営協議会がコミュニティ事業を展開している。

大賀委員:(ヘルス推進委員と)スポーツ推進委員とは、任命権者が変わってくるということか。

また、私の属する自由ヶ丘地区では、ヘルス推進委員がおこなう事業よりもスポーツ推進委員がおこなう健康づくり教室のほうが開催頻度も多いことからヘルス推進委員の活動を来年度から廃止しようという

話が出ている。ヘルス推進委員とスポーツ推進委員が連携できればいいのではないか。

大塚課長：ヘルス推進委員とスポーツ推進委員と一緒に活動する場もあるので健康課と連携しながらやっていきたい。

健康課もヘルス推進委員の活用方法を課題としていると認識している。

大賀委員：健康課の事業はスポーツ推進委員を活用しておこなわれているのか。

自由ヶ丘地区ではそのようにおこなっていると伺った。

大塚課長：健康課からの派遣要請を受けて、スポーツ推進委員を派遣している。(健康づくりリーダー養成講座など)

大賀委員：スポーツ推進委員がコミュニティセンターの事業などもおこなっており、すごくいい内容であると聞いている。

大塚課長：コミュニティ運営協議会の部会の中にスポーツ推進委員やヘルス推進委員がいて、健康福祉部会等に所属し、事業をおこなっている状況ではないかと思うが、詳細を正確に把握できていないことも課題である。

上田係長：ヘルス推進委員の理想は、各自治会から選出されたヘルス推進委員を地域の健康づくりのリーダーとして育成し、コミュニティで学び各自治会の中で健康づくりをおこなってもらうことである。

そのようなヘルス推進委員を育成していくために活動を展開しているが、そのサポートとして市から委嘱を受けているスポーツ推進委員にもヘルス推進委員の育成に協力してもらっている。

市丸会長：他に質問等ないか。

(質問等なし)

末永(文化スポーツ課)：2 スポーツ・運動を通したコミュニティ活動の活発化(3)コミュニティ対抗スポーツ大会の開催について。

現状は、例年、各地区の公民館活動部会長で構成する実行委員会を立ち上げてグラウンドゴルフ大会とお手玉大会を実施。令和2年度～4年度は新型コロナウイルスの影響により中止。

令和5年度は、実行委員会での決定によりお手玉大会は廃止となり、グラウンドゴルフ大会のみの実施となった。

参加人数については、平成26年の301人に対して、令和5年は177人と約半分に減少。子どもの数については、平成27年の30人に対して、令和5年は10人と3分の1となっている。

参加者の確保が課題となっている。

市丸会長：質問等ないか。

市丸会長：添付資料の参加人数の表の見かたが分かりづらいが、令和の参加人数は、4段目からで間違

いないか。

令和5年度のお手玉大会は、中止ではなく廃止で間違いないか。

末永(文化スポーツ課):間違いない。

市丸会長:人数が少ないため廃止なったのか。

上田係長:廃止の理由については、コミュニティの活動のため大会開催に向けて各地区の代表者で話し合う場が設けられている。その話し合いの場で、廃止の案が出て決定された。

市丸会長:資料の表に出てくるGGとは何か。

末永(文化スポーツ課):グラウンドゴルフの略称である。

末永副会長:子どもの参加人数が少なくなっているとのことだが、そもそもの狙いは、子どもの参加人数を増やすことなのか。

末永(文化スポーツ課):各地区のコミュニティの世代を超えた親善交流というのが狙いである。  
子どもから大人まで幅広く出てもらうことが理想である。

末永副会長:この大会は、競技性を持っていて、順位付けをして、幅広い世代で交流しようという取り組みということか。

末永(文化スポーツ課) そうである。

市丸会長:この大会は、以前おこなわれていた卓球大会やソフトボール大会と同じものか。

上田係長:そうであると思う。以前は、バレーボール大会も開催されていたと聞いている。

市丸会長:その他質問等ないか

(質問等なし)

末永(文化スポーツ課):3 子どものスポーツ機会の充実(1)スマイルキッズプログラム② 小学生の体力向上支援について。

現状は、平成27年に自由ヶ丘南小学校の5,6年生を対象とした体操教室をモデル事業としてスタートし平成29年度から令和4年度までは、学校側からの要請もあり、小学3年生の児童を対象に、民間体操クラブ(Belle 体操スクール)によるマット運動の指導を実施した。

令和5年度からは、「指導のノウハウは継承されていること」、「小学校の体育授業への支援が目的になっていること」、「教室が本格運用し、5年目であること」から取り組みは終了となった。

小学5年生の児童を対象に、勝浦浜海洋スポーツセンターにて海洋性スポーツ体験授業を実施。

平成29年度から宗像中央公園ゲートボール場にて民間陸上クラブ(アローザル)による「速く走れるかけっこ教室」を実施している。吉武小学校をモデル事業からスタートし、令和元年から本格運用を行った。

今後は、「小学校の体育授業への支援が目的になっていること」、「教室が本格運用し、5年目であること」から取り組み終了の方向で動いている。

オリンピックレガシーの取り組みとして、小学4・5年生の女子を対象に女子ラグビーの育成普及を図ることを目的にトライMUNAKATAを3月実施予定(女子ラグビー教室の開催)であったが、新型コロナウイルスの影響により中止し、サニックススポーツ振興財団に委託しガールズラグビースクールを実施。

サニックススポーツ振興財団等と連携して、小学4年生を対象にタグラグビー教室を3~4回開催している。

小学校の新体力テストにスポーツ推進委員を派遣している。

#### ④ 社会体育等における活動の支援について。

現状は、バドミントン育成教室及びソフトテニス育成教室を南の郷クラブで実施している。

宗像市が全国大会等参加費用補助制度を実施している。

令和5年2月に石川佳純サックスツアーの誘致、令和5年度の事業として、企業版ふるさと納税を活用し、アビスパ福岡とのトップアスリート交流事業を実施等、少しずつトップアスリートの交流の機会を増やすことはできた。

福岡県タレント発掘事業などの活用は、できていない。

課題は、全国大会等参加費用補助制度についても本当に必要な方に必要な補助ができていないのか不明。

#### (2) スポーツ指導者体制の整備① スポーツ指導者の育成及び活動支援について。

現状は、令和4年12月に河東中学校の運動部活動の指導者を対象に「中学校スポーツ部活動指導者コーチングモデル事業」を「体幹と姿勢、身体の連動」をテーマに実施した。

課題は、子どもたち指導をするには、年代に関わらず競技ごとにそれぞれ資格が必要となったり、特に中体連に関わるためには指導者資格のみならず審判資格が必要な場合が発生すると思うので資格の獲得・更新のためのバックアップの検討も必要。

オーバーワークと不適切なトレーニングによるスポーツ障がいが発生させないための指導等を共通認識するための講習会・セミナー等の学びの場の提供を検討している。

市丸会長：質問等ないか。

大賀委員：体操教室やかけっこ教室の取り組み終了の理由の1つに「小学校の体育授業への支援が目的となっていること」とあるが、そもそも授業の支援が目的ではなかったのか。

大塚課長：体操教室やかけっこ教室は、授業の支援ではなく文化スポーツ課の研究事業として実施し、定着後は教育委員会に事業を移行して継続させたいという狙いがあったが、連携や引継ぎうまくいかず移行できなかった。

文化スポーツ課がプログラム化し、教育委員会が予算化しそのプログラムを活用して授業の支援をおこなうような流れが理想であると考えているが、そこまでに至っていない。

大賀委員：村山委員にお伺いしたいが、小中一貫の学園の中で中学校の体育教員が小学校に指導することはないのか。

村山委員： 学園によってはおこなっているが、全学園が実施できているわけではない。

中央学園では、中学校の体育教員が6年生を指導して、スムーズに中学校に迎え入れる取り組みをおこなっている。

大賀委員： 専門的な指導ができるこの取り組みが定着するといい。

村山委員： 事業に取り組むにあたって、事業の成果や効果、教育的な学校へのメリットなどを検証して数値などは取っているのか。(例えば、かけこ教室で体力テストの数字が向上したなど)

大塚課長： 検証はおこなったものはあるが、具体的な数字として残せてはいない。

第2期スポーツ推進計画全体の課題でもあるが、計画上に目標値などが設けられていないため検証も難しいので第3期に向けては改善していきたいと考えている。

村山委員： その事業や取り組みに効果があったのかが数値として分かるようにあるいは、子どもたちの意欲などが向上したなどの検証ができるようにしてほしい。

市丸会長： (体操教室等の事業を) 続けてほしかったなどの意見はなかったのか。

大塚課長： 具体的に学校とのやり取りはできていないが、申込は多かったので需要はあったように思うが、学校にとっていい側面がある一方で外部指導者に授業を任せっぱなしになる現場もあり、事業見直しのきっかけとなった。

市丸会長： 運動の記録が伸びるのではなく、運動を好きになるというような結果が大事であると考えている。

数値目標を設定するとそれを達成しようと記録を偽造する子ども達も出てくるので具体的な数値目標を設定することは避けたほうがいいと考えている。

運動が好きである等のアナログ的な結果の収集が望ましいと考える。

働き方改革の観点では、外部の方に授業をお任せするというのは、良いと思う。

大塚課長： そこに関しては、教育委員会が考えて予算化していくものであり、文化スポーツ課が考えていくべき領域ではないと判断して、見直しをしたので教育委員会とも連携していこうとは考えている。

村山委員： 小学校のプールの授業についても外部の指導者を招くあるいは民間の施設を活用しての授業をおこなっている。

学校の先生が不在の中で授業が行われる環境ができる中で、教員のサポートの方法については検討をしていく必要があると現場側としても考えている。

大塚課長： 水泳については、特に外部の専門性のある指導者を活用するべき種目の1つではないかと思う。

村山委員： 若い教員の方々に指導のスキルが身につけていないので、外部に依頼するのは時代なのか

など思う。

末永副会長：数値目標について、達成すべき目標としての数値は必要ないと思うが、自分自身の変化を知るための数値は必要であると考えている。

その2つの数字を一緒にしないでほしいと思う。

市丸会長：他に質問等ないか。

(質問等なし)

末永(文化スポーツ課)：4 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進(1)スポーツ未実施者等のライフステージに応じたスポーツ・運動プログラムの開発・実施②20代、30代が参加できるスポーツ・運動プログラムについて。

現状は、宗像市スポーツサポートセンターにて、平日夜間の運動プログラム(ボクササイズ)やピラティスやストレッチポール教室を土曜日に実施。ワンコインで参加などの工夫はしているものの参加者50~70代となっており、固定化されている。

課題は、若い世代をターゲットとし事業を実施しているが、参加者は50~70代となっている。

参加者が固定化している。

(2)コミュニティにおけるスポーツ・運動活動、健康づくりの支援について。

現状は、南の郷クラブによる教室の実施。(R4.10月現在)会員数が118人(大人44人、子ども74人)で教室数が9教室(大人6、子ども3)である。

各地区コミュニティにスポーツ推進委員を派遣した。(派遣スポーツ推進委員数52人 延べ参加者数587人)

以上の2つの活動が中心となっており、活動の拡充に対しての支援をおこなっている。

課題は、指導員等の高齢化。

(3)障がい者のスポーツ・運動活動の支援①障がい者スポーツに触れる機会の提供について。

現状は、民間の団体等の協力を得て、パラバドミントン教室、パラバドミントン体験会とパラ水泳教室を実施。また、宗像市が東京パラリンピックのレガシーとしてパラバドミントンの日本代表選手団を受け入れ、さらにはサポートシティにもなっている。

障がい者スポーツ用品(ボッチャ等)を市で保有し、自治会やコミュニティへの貸出を実施している。

課題は、パラバドミントンの備品の調達など気軽にできるスポーツの啓発の取組み。

市丸会長：質問等ないか。

大賀委員：最終的には、第3期スポーツ推進計画に反映されるという流れになっていると思うが、第3次総合計画の話の中でも柱という言葉が出てきたが、どうつながっていくのかがイメージできない。

上田係長：表現が分かりにくいようで申し訳ないが、現在は第2期スポーツ推進計画の振り返りであり、第3期スポーツ推進計画を策定するうえでも第2期の反省が非常に重要であると考えている。

次回以降は、市民がどういったスポーツ施策を望んでいるのかを調査するアンケートの内容の精査やアンケート結果の報告、人口などの市全体の状況の説明をおこなう予定である。

第2期の反省点、アンケート結果、市全体の状況を踏まえて第3期に向けて取り組むべき課題を導き出



していく。

大塚課長：先に柱を立てて決めていくやり方が従来のやり方であったが、前回は説明したが今回は違う方法でおこなっていく。

大賀委員：そこは理解しているが、アンケートを取るのであれば何か基準や目標がなければただ漠然とアンケートを取るだけになってしまうのではないか。

大塚課長：文化スポーツ課としてもはじめての取り組む方法であるが、1ずつ積み上げていく今回の方法をご理解いただきたい。

大賀委員：わかりました。

市丸会長：他に質問等ないか。

(質問等なし)

末永(文化スポーツ課)：5 宗像市スポーツサポートセンターを活用し、住民が主体的に参画する地域スポーツ環境の整備(1)スポーツ資産の有効活用③宗像市スポーツサポートセンターと宗像市スポーツ協会等との連携について。

現状は、2023年度から開始となる「学校のはたらき方改革を踏まえた部活動改革」を受け、スポーツサポートセンターにおいて地域スポーツサイドから中学生の運動部活動の受皿づくりを進めるに当たり、市スポーツ協会との連携を図り、野球とバスケットボールにおける実践研究の取り組みを進めた。

宗像市スポーツ協会の40周年を記念して、宗像市スポーツサポートセンターが宗像市スポーツ協会と連携して、ウォーキング事業や市民親善ゴルフ大会、石川佳純47都道府県サクスツアーを開催。

中学校部活動の地域移行に伴い、受皿クラブの起ち上げを行う際に、スポーツ協会や各単位協会と十分な調整や意向確認を行うなど、連携を図る。

課題は、スポーツ推進の基盤づくり。

④ スポーツ推進委員との連携強化について。

現状は、定数25人。

各コミュニティから2人(赤間地区は3人)のスポーツ推進委員を配置。現在24人(任期2年の1年目)。

毎月1回の定例会の実施や小学校体力測定、プリンセス駅伝、グラウンドゴルフ大会、イイさんウォーキング等でスタッフとして市のイベントへの協力をいただいている。

各種研修会などに参加いただき、地域への派遣事業などに活用している。

課題は、スポーツ推進の基盤づくり。

⑤ 市内を本拠地とするトップチームの活用について。

現状は、宗像サンクスブルースが本市のグローバルアリーナで開催するトップリーグに多くの方が訪れるとともに、ファンクラブや市民応援団の会員促進につながるようにシャトルバスを運行してきたが、令和4年にサンクスブルースが廃部となり、活動もおこなえなくなった。

トヨタ自動車九州陸上競技部については、市民を挙げた応援や支援を行えるよう、後援会加入促進や

連携強化に努めている。

課題は、トップスポーツチームと市民との交流。

(2) トップスポーツ試合の地元観戦機会の提供(観る)

現状は、ジャパンラグビートップリーグや全日本実業団対抗女子駅伝競走大会予選会(プリンセス駅伝 in 宗像・福津)等のトップスポーツの観戦においては、市の広報紙やホームページ、チラシ等による周知、地域や学校等との連携による周知を実施した。

また、必要に応じて、市の SNS を活用した周知もおこなった。

応援者が増加したかの集計は、とれていない。

課題は、スポーツ推進の基盤づくり。

(3) スポーツボランティアの活用・充実(支える)

現状は、全日本実業団対抗女子駅伝競走大会予選会のボランティア参加が主となっている。

その他に令和4年度に開催した石川佳純 47 都道府県サックスツアーにおいて市卓球協会や市内中高生がボランティアで運営に参画していただいた。

課題は、付加価値のある体験の機会づくり

(4) トップアスリートとの交流事業の実施(交わる)

現状は、令和4年度までは、サニックスブルースの選手・スタッフによる幼稚園・保育園ラグビー訪問教室を実施していたが、サニックスブルースが撤退したことにより令和5年度は実施できなかった。

トヨタ自動車九州陸上競技部においては、小・中学生を対象としたランニングイベントでの選手による支援をおこなった。

また、トップアスリートとの交流として、令和4年度に石川佳純 47 都道府県サックスツアーの実施、アビスパ福岡と、宗像応援デーおよび宗像スポーツフェスタの実施、カノアラウレアーズ福岡と、むなかたアカデミー教室の特別教室としてバレーボール教室の実施をした。

令和5年度以降も既存の交流に加えてトップアスリートとの交流の機会を増やしていく方針。

課題は、各種トップスポーツチームから、地域連携の提案をいただいている。この提案をどう生かすか。

市丸会長：質問等ないか。

大賀委員：(1)の②の中に宗像市スポーツサポートセンターの組織体制の拡充とあるが、組織がどのように拡充されたかあれば教えてほしい。

大塚課長：スポーツサポートセンターは、立ち上げて6年目に突入し、市民が運動するきっかけづくり、スポーツや運動へつなぐ役割を持つスポーツ・運動の拠点施設として動いてきたが、コロナ期間の間十分な活動ができなかったことで人員体制が削られている状況。

活動については、縮小している状況ではあるが、次年度向けてきちんと予算要求をおこない、当初の目的に沿った取り組みができるようにエイコーウェルの協力も得ながら体制等を整えてやっていこうと考えている。

大賀委員：中学校の部活動の地域移行もあるため、サポートセンターがきちんと機能していくことが宗像市には必要だと思う。

大塚課長：グローバルアリーナやスポーツ協会との連携というのも非常に重要になってくると考えている。

現在スポーツサポートセンターが市民体育館に設置してあるのは、スポーツ協会との連携強化という狙いもある。

末永副会長：スポーツサポートセンターは、ハード面に対しての取り組みのイメージを持たれている方もいるかもしれないが、そうではないというのを前提に事業について考えていただきたい。

大塚課長：市民体育館を整備して設置しているため、ハード面のイメージが強いのもかもしれないが、宗像市のスポーツ推進するうえでの企画運営を実施する場所であるという認識をもっていただければと思う。

市丸会長：スポーツサポートセンターに対する予算というのは、市に要求するということか。

大塚課長：文化スポーツ課が財政当局に要求する内部の話である。

市丸会長：宗像市は、国にその後予算を要求するのか。

大塚課長：宗像市で単独で予算を組むことになる。

市丸会長：大きなお金が入ってくる見込みなのか。

大塚課長：設置当初ぐらいの規模で要求している。

市丸会長：他に質問等ないか。

(質問等なし)

末永(文化スポーツ課)：6 スポーツ観光による地域経済活性化(1)全国・九州レベルのスポーツ大会の誘致・開催支援について。

現状は、市が運営等に関わる宿泊を伴う大会は、プリンセス駅伝、ビーチラグビー大会、キッズセブンが挙げられる。

GAで開催される宿泊を伴う大会は、以下のとおり。

開催時期	大会名
4月～5月	サニックスワールドラグビーユース交流大会
9月	U-16 グローバルアリーナルーキーズカップ
10月	サニックスカップ U-17 国際ハンドボール交流大会
11月	サニックス CUP 国際新体操団体選手権
12月	サニックス旗福岡国際中学生柔道大会
1月	サニックスワールドラグビーユース交流大会予選会 グローバルアリーナ小・中学生バドミントン大会
2月	サニックス CUP 男子新体操競演会 サニックス Open 新体操チーム選手権

3月	サニックス杯国際ユースサッカー大会 サニックス杯 U17女子サッカー大会
----	-----------------------------------------

(3) 宿泊や市内周遊につながるスポーツ大会の開催・支援について。

現状は、グローバルアリーナを活用して、宿泊を伴う市主催のスポーツ大会は、むなかたキッズセブンラグビー大会のみで小学3、4年生が宿泊をおこなっている。

JR九州ウォーキングや宗像市商工会青年部が主催する「むなかたウォーキング」については、コロナ解禁後から宗像市が関わっていないので現状の把握から必要である。

現状、観光PRにつながる活動ができていないスポーツ大会は、プリンセス駅伝のみである。

課題は、ラグビーやウォーキングにこだわらずに大会等の開催を検討していくことが必要。

既存の大会においても工夫できるものは、積極的に取り入れる必要がある。

(4) むなかたスポーツコミッション(仮称)の体制の確立について。

現状は、プリンセス駅伝 in 宗像・福津が大きな目玉となり、スポーツ大会を通して市内周遊等の観光PRの促進につながられている。特に視聴者プレゼント企画を活用しての宗像市宿泊プランや食事券のプレゼントについては、観光PRにつながった。

グローバルアリーナについては、令和2年に(株)グローバルアリーナと「スポーツを通じた地域振興に関する協定」を締結し、グローバルアリーナ等と宗像市スポーツコミッション推進協議を開催(月1回実施)。むなかたキッズセブンラグビー大会の実施やラグビーチームの誘致などをおこなっている。

課題は、スポーツコミッションの定義を明確にする必要がある。

市丸会長：何か質問等ないか。

末永副会長：観光関係の部署と連携はしているか。

大塚課長：グローバルアリーナと産業政策課と文化スポーツ課で連携会議をおこなっている。

情報共有が主な内容となっている。

吉丸係長：グローバルアリーナの来場者に対して、市内の周遊観光へつなげることが目的であったが、なかなかスポーツ合宿に来ている方へのアプローチは難しいという課題がある。

スポーツを通じたまちづくりであるスポーツコミッションをどう取り組んでいくかという中で産業政策課との連携は重要になると考えているのもう一度きちんと整理する必要がある。

市丸会長：他に質問等ないか。

(質問等なし)

末永(文化スポーツ課)：7 スポーツ活動の場の確保(1)既存の3つの市営体育館施設の運営について。

現状は、利用しやすい施設運営の在り方については、調査研究は実施できていない。

近隣市町の現状も含めて、調査については検討するが、現状の運用において市民からの要望等は確認できていないため、見直しの必要性はないと判断している。

課題は、備品の更新が適切にできていない。

(2) 学校開放施設の運営。

現状は、宗像市スポーツ協会、教育政策課、学校管理課と連携しながら学校施設の開放事業を実施している。

開放施設の拡大については、必要性についての調査等未実施であり、市民からの要望も確認できていないため大きな進展はない。

その他、学校開放を実施している市内小中学校にリモートロックを設置した。

課題は、リモートロックの活用方法。

利用料金の支払い方法（現状は、前納）。開放施設の備品の在り方について。利用のルール違反をおこなう団体への対応。

(3) 市内のスポーツ施設の活用について。

現状は、今後のスポーツサポートセンターの在り方をまとめる中で、スポーツ資産の活用についても整理し、市民が活用可能なスポーツ施設について調査研究を行うという段階であり、具体的な動きや政策に取り掛かれていない。

課題は、スポーツ推進の基盤づくり。

(4) 近隣市町のスポーツ施設の相互利用について。

現状は、「福岡都市圏スポーツ施設広域利用案内」を宗像市スポーツサポートセンターのHPに掲載し、近隣市町のスポーツ施設情報を発信。

市内スポーツ施設は空き状況の検索や予約申込をインターネット上で行うことができるようになっており、広域での利用がしやすい環境が整っている。

有益な相互利用にまでは、至っていない。

課題は、近隣市町の施設について、正確に把握できていない。

施設の場所や設備、予約のルール等が、相互利用をしやすいものになっていない。

市丸会長：質問等ないか。

末永副会長：近隣の市町村でいえば、福津市の民間のスポーツ施設等が撤退している印象があるが、そのことについて宗像市の意見を聞かせてほしい。

大塚課長：福津市の方が宗像市の施設を利用する場面を多くあるが、今後施設の利用料金を見直していく中で市外の方から2倍、3倍の料金を徴収するというのはあり得る話ではあるが、現時点では具体的な取り組みはない。

上田係長：福津市のスポーツ施設が撤退している情報は把握していなかったのが驚いている。

末永副会長：プールがなくなっている。

大塚課長：厚生年金プールがなくなったことは把握している。

末永副会長：津屋崎の私たちが管理していた民間のプールも撤退した。

他の施設の情報は入ってきていないが、そういった状況が発生している現状がある。

福津市は、商業施設を展開して、スポーツ施設は宗像市に頼るという方向性を持っているのではないか。

そうであれば、宗像市にどんどん来てくださいというすみ分けができるといいのではないか。

大塚課長：野球場やテニスコートは、福津市のほうが充実しているため、大会は福津市の施設を利用して開催していると聞いているので持ちつ持たれつといった部分もある。

市丸会長：他に質問等ないか。

(質問等なし)

末永(文化スポーツ課)：8 中核拠点となる施設の再構築と整備(1) 体育館施設の整備について。

現状は、宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画、宗像市体育施設保全計画に基づき、必要な改修工事等をおこなっている。

玄海B&G海洋センターの照明LED化、外壁の改修工事、勤労者体育センターの照明LED化、トイレの洋式化等の改修工事、宗像市民体育館のカーテン、フローリング床の改修工事を実施。

令和5年度は、宗像市民体育館の火災報知器の更新を実施予定。

将来の体育施設の方向性に向けて、協議を進めている。

課題は、公式な大会、大規模な大会、トップアスリートなどを誘致できる十分な広さの体育施設を確保できていない。

十分な駐車場を確保できていない。

(2) 屋外スポーツ関連施設の整備

現状は、長寿命化計画に基づいて、必要な改修工事は実施できている。

宗像中央公園野球場改修工事(TOTO 助成活用)、運動広場野球場の近隣住居への飛球を防ぐため、レフトフェンスの嵩上げ等改修工事、ふれあいの森総合公園のスケートボード場の改修工事を実施した。

明天寺公園野球場のマットの張替工事を実施予定、ふれあいの森総合公園の改修工事を検討している。

課題は、各屋外施設の駐車場の台数が十分に確保できていない。

定期的に必要なグラウンドの整備についても十分に行なえていない。

公式な大会ができるような施設が確保できていない。

(3) 民間スポーツ施設の活用について。

現状は、民間スポーツ施設と連携し、東京 2020 オリンピック競技大会の事前合宿受入を実施。

市が保有しないサッカー場や陸上トラック、フットサル等の民間のスポーツ施設について、これらの民間のスポーツ施設を市営スポーツ施設の代替施設として活用に向けて調査研究している。

課題は、場所も含めて民間の活用では、市民サービスに限界がある。

市丸会長：質問等ないか。

末永副会長：市全体の施策の中で、スポーツの位置付けはどのあたりになるのか。

例えば、上位10番以内に入るとか、大まかでも構わない。

大塚課長：市長に成り代わって話をすることになるので難しい質問ではあるが、市民生活に直結するものではないので最優先事項でないのは確かであるが、文化スポーツ課の予算は大

きな額がついているので市長も力を入れている分野の一つではないかと思う。

上田係長： 福祉の分野でも生きがいづくりが重要視されており、スポーツ分野は生きがいづくりに大きく関わっていると思うので、文化スポーツ課が率先して動いていくべく事項であると考えている。

スポーツをおこなううえでの相談・支援体制の整備も課題の1つである。

市民1人1人がスポーツをしたいと思えるような生きがいの場をつくっていく必要がある。

市丸会長： スポーツ庁が競技スポーツをおこなっているうえで言い換えると自治体は、競技スポーツではなく、健康や生きがいづくりにつながるとい方向性が大切であると考えている。

そういったデータを集約して比較できればいいと思う。

記録の競争だとドーピング問題等も出てくるが、長生きの競争であればそのような問題も起こらない。

大塚課長： 8の(1)の現状において、将来の体育施設の方向性に向けて、協議を進めているとあるが、あくまで予定になるが、令和6年度中に市内運動施設（市民体育館、勤労者体育センター、玄海 B&G 海洋センター、弓道場、屋外施設、アクアドームなど）の利用調査をおこなって、総合的に廃止や長寿命化、建て替えを検討していきたいと考えている。

市丸会長： 体育施設というのは、大きな体育館と小さな体育館どちらのイメージなのか。

大塚課長： 長寿命化、現地での建て替え、別場所での建て替えのような選択肢の中でどうしていくかを検討していく。

末永副会長： 宗像市の位置付けでは、アクアドームは文化施設であるが、体育施設の方向性の話になるとそちら側に入れられる。

アクアドームを含めて体育施設の収容人数を踏まえたところでの利用率等を判断してほしい。

市丸会長： ユリックスの場所に大きな体育館が建つ話が以前ありましたが、それが復活したのか。

ぜひ、そのような体育館を建てて、宗像市民に還元してほしいと思う。

大賀委員： 次回の審議会に向けて、前回のアンケートを情報提供してほしい。

市丸会長： その他質問等ないか。

(質問等なし)

5 その他

市丸会長： その他でこの場共有することはないか。

上田係長： 次回1月の審議会の日程調整をおこなう。

1月9日～19日の間で調整したい。

(委員の日程を確認)

結果：1月12日(金)18時から 市役所本館2階 201会議室

6 閉会

市丸会長： 以上を持ちまして、第2回宗像市スポーツ推進審議会を閉会する。

【配布資料】

○資料1 第3次総合計画について

○資料2 第2期スポーツ推進計画の現状と課題

令和6年1月12日

署名 大 賀 龍 夫

署名 釜 瀬 計